



安全衛生

あれこれ

35

増田労働衛生コンサルタント事務所

所長 増田稔久

危険の感受性を高めよう！

11月は横断中の歩行者死者が年間最多！

先日、片側2車線の信号機のある道路で横断歩道を渡っているとき直進してきた黒色のワンボックス車が信号無視をして目の前を通り過ぎました。私は横断歩道を半ば渡った時点で、第六感がひらめき「あ

の運転者はよそ見をしている！ 止まる気配がない？」と後退りし、寸前のところで被災を免れました。しかし、この横断歩道は通学路。子供たちには、信号が青だからではなく、車が止ま



っているか、止まろうとしているかを確認して渡るべきと教えなければと思いました。また、運転者の立場としては、早めにスピードを落とし歩行者に止まる意思を見せること、停止線より余裕をもった距離で止まる配慮が必要だと改めて考えさせられました。さて、私が事故直前にひらめいた第六感は「危険の感受性」の働きです。危険の感受性とは、危ないことを危ないと気付き安全行動を取ることです。労働災害の防止にとつ

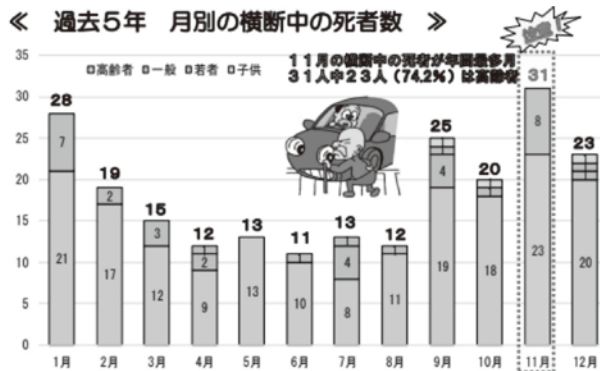
て、鋭い感受性を持つことは大変重要なことです。感受性に似た言葉ですが「感性」(※)について、ある精神科の大学教授は「①違いに気付き、②心を動かされ、③行動する」ことで、豊かな感性は自身の生き方にも関わっていると記していました。このポイントで危険の感受性で言いますと「①安全に関心をもち幅広い知識を得る、①②変化や異常、危険に気付き、②死傷したら大変だと心を動かされ、③①①直ちに安全行動を取る、③①②

る死亡者数は117人で過去最少となりました。残念ながら今年増加傾向にあります。事故の内訳をみると横断中の歩行者の死亡が最も多くなっています。そんなことから、愛知県警察本部交通部では、平成31年に「毎月11日は横断歩道の日」(11を横断歩道のイメージとした)と定め、別掲リーフレット(同本部のホームページから引用)のとり啓発活動が行われています。特に、「11月は、横断中の歩行者の死者が年間最多！」(同引用)とされています。

同ホームページではこの種のリーフレット「交通事故防止のポイント」が毎月公開されています。分かり易い内容ですので、是非職場の安全教育の資料として活用してはいかがでしょうか。

※感性と感受性…広辞苑によると、「感性」とは外界の刺激に応じて感覚・知覚を生ずる感覚器官の感受性。「感受性」とは外界の印象を受け入れる能力。この稿では「感性(感受性)」と理解しました。

11月は、横断中の歩行者死者が年間最多！



注：昨年公表された平成28年～令和2年のデータによる

更に上司と問題を共有し対策を講ずる一でしょう。職場の皆さんには、リスクアセスメント調査書、災害事例・ヒヤリハット報告等を活用した安全教育や日々のKYTにより危険の感受性を高めて欲しいと願っています。

ところで、昨年の愛知県下で発生した交通事故によ